

2012年9月27日

本店所在地 東京都港区六本木一丁目6番1号
 会社名 SBIホールディングス株式会社
 (コード番号8473 東証第一部、大証第一部)
 代表者 代表取締役社長 北尾吉孝
 問い合わせ先 責任者役職名 取締役常務
 森田俊平
 電話番号 03-6229-0100 (代表)

SBI 損害保険の実施する第三者割当増資の引き受けに関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、当社子会社のSBI損害保険株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:城戸博雅、以下「SBI損保」)が実施する第三者割当増資を引き受けることを決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

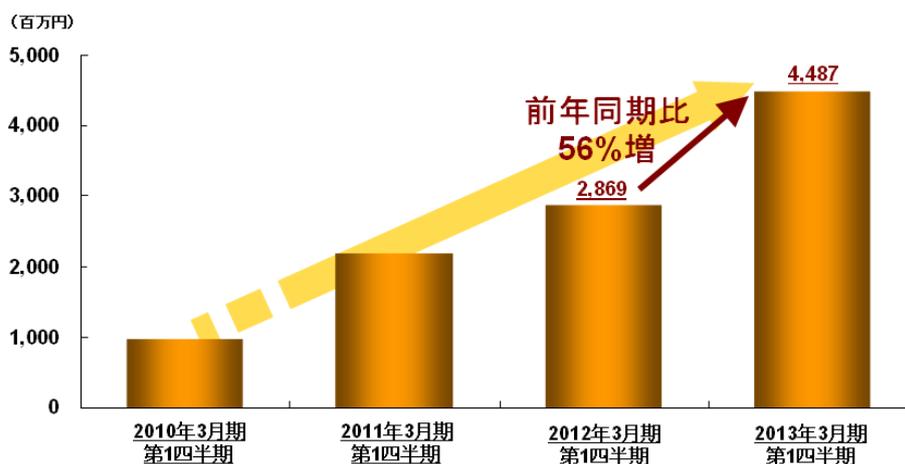
1. 本件実施の理由

SBI損保は2008年1月の営業開始以来、「顧客中心主義」を徹底し、顧客にとってよりわかりやすく利便性の高い損害保険サービスの提供に努めており、株式会社ダイヤモンド社が発行する「週刊ダイヤモンド」の「自動車保険料ランキング」において4年連続第1位を獲得するなど高い評価を得ております。その結果、SBI損保の2013年3月期第1四半期の元受収入保険料は前年同期比約56%増(下記グラフ①参照)、本年8月末時点におけるSBI損保の自動車保険契約件数は前年同期比約51%増(下記グラフ②参照)と大幅に増加しております。さらに8月1日からは新たな商品としてがん保険の取り扱いを開始するなど、業容は拡大し続けており、ダイレクト損保業界における地位も大幅に向上してきております。(下記図③参照)

このようにSBI損保の業容拡大が続く中、同社の経営の健全性を維持すべく、当社はこのたびSBI損保の実施する第三者割当増資を引き受けることにいたしました。このたびの増資により、同社のソルベンシー・マージン比率(※)は本年9月末時点で650%を超える見込みです。

※ソルベンシー・マージン比率とは、保険業法で定められた保険会社の経営の健全性を示す指標の一つで、保険会社における保険金の支払余力を示す。ソルベンシー・マージン比率が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされている。

グラフ① 元受収入保険料の推移



※保険料の入金完了ベース、継続契約、継続期間満了、中途解約者別は除く

グラフ② 自動車保険契約件数の推移



※保険料の入金完了ベース、継続契約、継続期間満了、中途解約者数を除く

図③ ダイレクト系損保主要各社の自動車保険料収入の比較

(単位: 百万円)

会社名	開業時期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期1Q
ソニー損保	1999年9月	59,849	65,516	70,712	19,219
三井ダイレクト	2000年6月	32,054	33,271	35,261	10,068
アクサダイレクト	1999年7月	30,689	32,688	33,830	8,854
チューリッヒ保険	1986年7月※1	27,973	27,931	30,126	8,103
アメリカンホーム	1960年12月	17,365	17,143	16,594	SBI損保 4,569
そんま24	2001年3月	9,820	10,697	SBI損保 14,288	アメリカンホーム 4,008
セコム損保※2	1950年3月	8,625	SBI損保 10,069	そんま24 11,810	そんま24 3,190
セブン自動車火災	1983年4月	8,202	セコム損保 8,475	セコム損保 8,352	セブン自動車火災 2,822
SBI損保	2008年1月	4,713	セブン自動車火災 7,755	セブン自動車火災 7,990	イーデザイン損保 2,337
イーデザイン損保※3	2009年6月	1,100	イーデザイン損保 2,856	イーデザイン損保 5,213	セコム損保 非開示

※ すべて元受正味(保険料(出所:各社公表資料))

※1 チューリッヒ保険は日本支店の開業 ※2 セコム損保は元受保険料を記載 ※3 イーデザイン損保は正味収入保険料を記載

2. 新株式引受の概要

- (1) 引受株式数 普通株式 2,000,000 株
- (2) 引受総額 6,000,000,000 円 (1株あたり 3,000円)
- (3) 払込期日 2012年9月28日
- (4) 本件実施後の株主構成

SBIホールディングス株式会社	96.43%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	3.46%
ソフトバンク株式会社	0.11%

以上

本プレスリリースに関するお問い合わせ先:

SBIホールディングス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 03-6229-0126